

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090500275		
法人名	医療法人 心愛		
事業所名	グループホーム メロディ (1ユニット・2ユニット)		
所在地	〒800-0248 福岡県北九州市小倉南区上貫3丁目3番25号 Tel. 093-474-2558		
自己評価作成日	令和05年01月15日	評価結果確定日	令和05年03月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の退職率が低く、殆ど3年以上勤務している
 入居者の平均介護度は2.3と自立度が高く、コロナ禍で制限が多い中でも、楽しみを見つけ和気あいあいと生活している。
 母体の医療法人との連携により、体調の変化に早期に対応できている。
 また、職員と管理者、母体法人の報連相がしっかりできている為、施設内で亡くなった方はいない。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

小倉南区郊外の複合型福祉施設の一部にある、定員18名のグループホームである。母体医療機関医師による月2回の往診と緊急時の対応、週1回の訪問看護師、介護職員との連携で24時間利用者の健康管理に取り組み、安心の医療体制が整っている。毎月、利用者の笑顔の写真を載せた「ふれあい通信」で健康状態や生活状況を詳細に報告し、家族に大変喜ばれている。管理者が着任して3年目職員の離職もなく、安定した馴染みの関係の中、利用者、家族、職員、地域住民とのコミュニケーションに努めながら、「相談しやすい、納得するまで話してくれる丁寧な対応」により、信頼関係を築いている。コロナ禍で、地域交流や外出等、外部との関わりが難しい状況の中、平均介護度2.3で自立度の高い利用者、いろいろなアクティビティを提供し、笑顔と笑い声の溢れる活気ある暮らしを実現している。処遇改善により職員のモチベーションを高め、市内に6ヶ所ある同法人グループホーム間の横の繋がりを大切に、法人全体で質の向上に取り組み、社会的にも信頼度が増している、グループホーム「メロディ」である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel. 093-582-0294		
訪問調査日	令和05年02月13日		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25.26.27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9.10.21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20.40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2.22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38.39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11.12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32.33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:20)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが				

1. 多岐岐口 .00)	4. ほとんどいない
--------------	------------

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	【ユニット共通】 朝の申し送り時間の理念唱和は継続して行っている。	法人の理念とメロディ独自の理念を見やすい場所に掲示し、朝の申し送り時に出勤職員で唱和して理念の共有に努めている。併設事業所や母体である医療機関と連携し、理念、「心身の充実、愛情あるサービス、医療の充実」の実践に向けて取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	【ユニット共通】 コロナウイルス感染症の拡大により地域の行事には参加出来ていないが、運営推進会議を通して、清掃活動には参加している。 また、敷地内の2事業所との連携は出来ている。	コロナ禍以前は、利用者の状態を見ながら地域の活動や行事に参加していたが、現在は自粛している。管理者が地域住民であることから、コロナ収束後にはこれまでの関係に加えて新たな繋がりを開拓し、地域交流を広げていく事を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	【ユニット共通】 敷地内の同法人施設介護付き有料老人ホーム「オーケストラ」地域密着型通所介護事業所「ヴァイオリン」と相互に協力し地域貢献に努めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	【ユニット共通】 地域包括支援センターには、書面にて運営推進会議参加のお願いをしたが参加できず、小倉南生活保護課の担当者とは面談し密に連絡を取り合っている。	新型コロナウイルス感染症の状況をみながら、対面もしくは書面で2ヶ月毎に開催している。利用者の状況、行事、職員体制、研修報告、ヒヤリハット・事故発生状況等を詳細な資料を付けて報告し、各委員から意見や要望等を聴き取り、ホーム運営に反映させている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	【ユニット共通】 小倉南区地域包括センター・小倉南区役所生活保護課担当者との連携に努めている。	毎月1日に行政に空き状況を報告している。事故があればその都度報告し、疑問点や困難事例について相談する等、行政担当者と連携を図っている。また、生活保護課や地域包括支援センター職員と常に情報交換しながら協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	【ユニット共通】 「身体拘束0宣言」は継続している。委員会での勉強会も定期的に行っている。	身体拘束適正化委員会を職員会議の中で3ヶ月に1回開催している。職員に対してアンケートを実施し、振り返りの機会を設けると共に、気になる場面を見かけたら、その都度声を掛け注意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	【ユニット共通】 内部研修を継続し、職員全体で虐待についての知識を深め、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	【ユニット共通】 内部研修などで成年後見人制度の知識を深めている。ご家族からの相談は殆どないが、身寄りがなく生活保護受給をされている入居者に関しては、保護課担当者や地域包括と連携し、必要とする制度が活用できるように支援している。	権利擁護の制度について内部研修を行い、職員の周知に努めている。制度に関する資料やパンフレットを用意し、必要時に利用者や家族に説明を行い、申請機関に相談しながら制度を活用できるよう支援している。現在、制度を活用してしている方がいるため、やり取りを通して制度についての理解を深めている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	【ユニット共通】 入居時、制度の変更時は、書面にてご通知し不明な点においては、随時問合わせに応じ説明や対応を行っている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	【ユニット共通】 ご意見箱を各ユニットに設置している。	日々の関わりの中で利用者の意見や要望を把握し、職員間で共有している。家族からは電話やメール等で意見や要望、心配な事等を聞き取り、ホーム運営や介護サービスに反映させている。苦情受付窓口を掲示し、意見箱を設置して、利用者や家族が意見や要望、苦情を表せる体制を整えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	【ユニット共通】 毎月職員ミーティングを行い、職員からの意見を聞くようにしているが、その際には、殆ど意見が出ることがない為、都度、個人面談を実施している。	職員会議を月1回開催し、話しやすい雰囲気の中で活発な意見交換を行っている。職員からの意見や提案は検討し、出来るだけホーム運営や業務改善に反映させている。また、毎日の申し送り時に職員の気付きや心配事を話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	【ユニット共通】 職員のモチベーションの向上の努めている。また、本人の努力・実績によって賞与を増額。認知症実務者研修等、資格習得のできる研修への参加を推進している。本人の希望に応じて年次有給休暇や特別休暇を寄与している。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	【ユニット共通】 採用にあたっては、性別や年齢に関係なく採用。また、個々の職員が保有する能力を発揮できるように配慮している。	職員の希望に沿った働き方や希望休の取得、有休の消化等、リフレッシュしながら生き生きと働くことのできる職場環境を整えている。職員の資格手当を引き上げる等、法人全体で職員の処遇改善に取り組み、管理者は職員に「何をどうしたいのか」を個別に聞き取り、職員が目標を持って働けるように支援している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	【ユニット共通】 入居者に対し、人権の尊重・生命の尊厳について職員等に退位し教育・啓発に努めている。	利用者の人権を守る介護サービスについて、内部研修で学ぶ機会を設け、職員会議や毎日の申し送りの中で話し合い、職員一人ひとりの意識づけを行っている。職員は、利用者を知ることにも努め、利用者が生き生きとその人らしく生活できるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	【ユニット共通】 職員一人一人の経験、ケアの力量等を勘案し外部研修等を受ける機会の確保に努めている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	【ユニット共通】 法人グループ6か所のグループホームの管理者会議の定期的な実施と同敷地内の介護付き有料老人ホームや地域密着型通所介護の責任者との交流を行っている。また、可能な限り現場職員が外部の研修に参加できるようにしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	【ユニット共通】 介護職員、計画作成者、管理者が一丸となりご家族との信頼関係の構築に努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	【ユニット共通】 介護職員、計画作成者、管理者が一丸となりご家族との信頼関係の構築に努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	【ユニット共通】関係機関からの食の情報やご家族からの情報をもとに、本人把握のためのアセスメントを行い適切な胃炎が出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	【ユニット共通】 常に本人を中心としてケアを考え、感情や思いを共有できるように努めている。また、利用者相互が良い人間関係を保てるよう必要な支援を行っている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	【ユニット共通】 ご家族の意見、ご意向を把握しながら、共に本人を支えることができる関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	【ユニット共通】 コロナウイルス感染症による面会中止期間が長期に渡っているため電話での会話や手紙(ハガキ)等を利用し関係が途切れないように側面的に支援している。	コロナ感染対策以前は、家族や親戚、友人、知人の面会を歓迎し、馴染みの店の買い物に職員が同行したり、家族の協力を得て、自宅への帰宅や外食を楽しんでいたが、コロナ禍の中で現在は自粛している。電話や手紙の取り次ぎは継続して支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	【ユニット共通】 日頃の交流や余暇活動を通じ、ご入居者同士が関わりあえるような雰囲気作りを心掛けている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	【ユニット共通】 長期入院等で契約が終了した後も、いつでも相談できるような関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	【ユニット共通】 日常生活の中で、ご入居者の要望や意向を聞き取り、職員間で共有化サービスに反映出来るように努めている。困難な場合は、本人を中心としたケアを基本的に検討している。	職員は日常生活の中で、利用者の思いや意向を把握し、記録して職員間で共有し、介護サービスに反映させている。意向表出が困難な利用者には、家族に相談したり、職員間で気づきを出し合い、利用者本位のケアとなるよう検討している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	【ユニット共通】 入居前後に収集した情報を基本とし、日々の申し送りをタブレットに入力、全ての職員が共有できるように努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	【ユニット共通】 心身状態、些細な体調の変化等を職員間で共有し、状況の把握に努めている。また、主治医、訪問歯科医師、訪問看護師、必要に応じて専門医との連携に努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	【ユニット共通】 計画作成者を中心として、職員の意見を集約し定期的なモニタリングを実施、3ヶ月毎の定期的な計画の見直しが行われている。	ケアマネージャーを中心に、電話で小まめに連絡を取って家族の意見や要望を聞き取り、職員の意見や気づきを集約して、短期3ヶ月長期6ヶ月で介護計画を作成している。また、利用者の状態変化に応じて、家族や主治医と話し合い、必要であればその都度見直ししている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	【ユニット共通】 介護記録にて日々の様子を記録に残し、申し送り(タブレット)を活用しながら、職員間の情報共有に努め、ケアの見直し等に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	【ユニット共通】 在委託酸素、バルーン留置の対象者の受け入れを行ったり、病院受診、買い物、外出、外泊等の送迎、ご本人やご家族の状況を踏まえ柔軟な対応に努めている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	【ユニット共通】 地域資源の把握に努め、可能な限り敷地内の有料老人ホーム、デイサービス、訪問相談員、ボランティア、上貫西校区会長等の連携の中で安全に暮らしを楽しむことが出来るように支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	【ユニット共通】 ご本人とご家族の希望を最優先し、納得のいく形でかかりつけ医を決めて頂くが、専門医を除いては基本的に法人母体の医療機関を選択されるケースが多いのが現状である。	入居前に利用者や家族の希望を聴いて主治医を決めている。ほとんどの利用者が母体医療機関医師を主治医として選択し、週1回の訪問看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整っている。また、他科受診や以前からのかかりつけ医受診には管理者が同行受診し、結果を家族に報告している。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	【ユニット共通】 やはり訪問看護から月4回の巡回訪問が行われており、訪問看護師との情報共有と受診等の助言など、日々の細やかな状態変化について適切なケアが受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	【ユニット共通】 管理者は入院先の医療機関の訪問やご家族への連絡を行い、医療連携室担当者、退院支援看護師との退院に向けた教護などを随時行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	【ユニット共通】 現状では、法人母体の医療機関で終末期を迎えるケースが多いが、入居契約時に「病状の重症化に対する指針」をもとに説明を行い、方針の共有化に努めている。	重度化した場合について、契約時に利用者や家族に説明を行い、同意を得ている。利用者の重度化が進むと家族と話し合いを重ね、主治医の意見を参考にしながら方針を決定し、関係者で共有して、出来る限りホームで過ごせるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	【ユニット共通】 内部研修やマニュアル等を活用している。初期のバイタル測定バイタル確認、意識レベルの確認、救急通報等を殆どの職員が対応できるように努めている。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	【ユニット共通】 大雨や土砂災害における訓練を定期的実施している。また、避難場所等においては同一敷地内の有料老人ホームへの避難を取り決めており、上貴西町内会会長、民生委員ににもご支援を頂いている。	毎年3回非常災害を想定した避難訓練を実施し、2回は火災を想定、1回は土砂災害を想定して行っている。裏山の土砂災害を想定し、併設の介護付き有料老人ホームの3階に避難する事や避難経路を確認している。また非常食や飲料水、非常用持ち出し袋を玄関に用意している。地域の方との協力体制も築いている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	【ユニット共通】 事業所の基本理念を念頭に置き、対応するように心掛けている。不適切な言葉かけやケアを行っていないか職員同士でチェック出来る雰囲気作りを努めている。	職員会議や内部研修で、利用者一人ひとりを尊重するケアについて常に確認し、言葉遣いや対応に注意して、利用者のプライドや羞恥心に配慮した介護サービスに取り組んでいる。また、個人情報の取り扱いや職員の守秘義務については、管理者が常に職員に説明し周知している。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	【ユニット共通】 ご本人の意思表示の可否に関わらず、コミュニケーションを密に図り、自己決定が出来るようにつ。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	【ユニット共通】 ご本人の意思を確認し、それに沿った支援が出来るように努めている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	【ユニット共通】 ご本人の好みに合わせた格好が出来るように支援したり、何日も同じ服を着ないように助言している。ご家族からお預かりしている衣料から日常着の身だしなみを整えて差し上げ、化粧品等も適宜行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	【ユニット共通】 随時、ご入居者の希望等を聞きながら職員とご入居者が一緒に食材の下処理やおやつ作りを行っている。	配食サービスを利用しながら、時には旬の食材を使った手作りのおかずを添えたり、行事食は手作りする等、「食」を大切に取り組んでいる。裏山で掘った筍を調理して食べたり、職員の家で取れたさつま芋を焼きいもにしたり、高菜やらっきょうを漬ける等、利用者には大変喜ばれている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	【ユニット共通】 毎日の食事量、水分摂取量の確認と記録を行い摂取量の変化に早期に対応出来る様にしている。また、日常的な食事はもとより、体調不良による食欲不振時の対応として、主治医指導、助言のもとで必要な物を迅速に提供出来るように支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	【ユニット共通】 訪問歯科医師の指導のもと、毎食後の口腔ケアを行い、口腔内の清潔保持に務めている。また、口腔内に異常が確認された場合は、ご家族の同意を得て訪問歯科医師が、適宜治療を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	【ユニット共通】 排泄に対するご入居者の思いを尊厳と考え出来る限りトイレでの排泄が出来るように支援を行っている。	職員は、利用者一人ひとりの生活習慣や排泄パターンを把握し、それぞれの間隔でトイレで排泄できるよう、声掛けや誘導を行っている。夜間も極カトイレに行くようにしているが、利用者の状態に応じて、ポータブルトイレを設置したり、パットやリハビリパンツ、オムツの使用方法を工夫して、利用者が快適に過ごせるよう支援に取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	【ユニット共通】 毎日のリハビリ体操、個別の散歩等も適宜取り入れながら、こまめな水分補給と植物繊維の摂取、乳製品、発酵食品の提供等で対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	【ユニット共通】 週3回の入浴日を設定。その日のご本人の意向、体調不良等で入浴できなかった時は、日曜日を予備日として対応できるように調整している。季節の雰囲気作りの為、ゆず湯や菖蒲湯、入浴剤を使用している。	利用者の希望や体調に配慮しながら週3回の入浴を基本としている。菖蒲や柚子、入浴剤を入れて、季節を感じる事が出来るように工夫し、利用者と職員が一对一でゆっくり会話しながら楽しい入浴となるよう取り組んでいる。水虫のある方は毎日足浴を実施する等、一人ひとりに丁寧に対応している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	【ユニット共通】 生活リズムの維持に十分配慮をしながら、その方の習慣や体調に合わせて居室のベッドで休んで頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	【ユニット共通】 内服薬の内容を職員が把握し、病状の変化の確認、服薬情報の申し送りなど。誤薬事故のないようダブルチェックを行い確実な服薬管理に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	【ユニット共通】 個々の趣味、嗜好を把握し、可能な限りその方が楽しみをもって日常生活が送れるように支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	【ユニット共通】 着任直後から、約3年コロナウイルス感染症の拡大により、現在は外出自粛中。終息すれば、四季に応じた外出レクや外食等を実施したいと考えている。	新型コロナウイルス対策の為、外出は自粛中であるが、天気の良い日には鯉のぼりを観に少人数ずつドライブをしたり、散歩して紫陽花を観に行ったり、少しずつ外気に触れ気分転換が出来るよう支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	【ユニット共通】 ご家族の了承のもとで、少額のお小遣いを自己管理できる方はご自分で管理されている。外出のできない昨今は、ご本人の希望により職員が買い物の代行をする等柔軟に対応している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	【ユニット共通】 希望があれば、電話や手紙のやり取りが出来るように柔軟に対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	【ユニット共通】 安心して快適な生活が出来る様、慣れ親しんだ環境作り、生活感のある環境作りに努めている。	室内には、絵画や季節毎の飾り物、職員と一緒に作った作品等を飾り、家庭的な雰囲気のある共用空間である。また、清掃、換気、消毒を小まめに行い、清潔で気持ちよく過ごせる環境整備に努めている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	【ユニット共通】 構造上、間仕切り等が出来ない為、共有空間はフリーの状態にしている。フロアのソファや椅子は椅子等は自由の動かせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	【ユニット共通】 ご本人、ご家族の意向を伺いながら、大切にしている写真や絵画、使い慣れた家具等可能な限り自由に持ち込んで頂き、少しでも心地よく過ごして頂ける様に対応している。	入居時に、利用者や家族と話し合い、これまで使用していた家具や仏壇、冷蔵庫、家族の写真、ぬいぐるみ等、馴染みの物を身近に置く事で、利用者が安心して過ごせる環境作りに取り組んでいる。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	【ユニット共通】 ご本人やご家族、職員の意見を集約し。出来る限り自立した日常生活を送ることが出来る様な環境作りに努めている。		